

医療和平

「医療和平」とは AMDA が提唱したコンセプト。紛争当事者の双方に中立人道支援の立場で国際医療協力を行ない、紛争の緩和を図り和平プロセスに寄与する試み。過去の例として、コンボ紛争で対立するアルバニア系とセルビア系双方への医療支援、アフガニスタンの北部同盟とタリバンの双方と合意したワクチン停戦がある。スリランカ医療和平は AMDA にとって第3番目の医療和平プロジェクトである。ノルウエー政府の仲介により19年ぶりにスリランカ政府とタミールの虎との間に停戦が成立した。復興への支援は日本政府が主役である。AMDA が北部・東部・南部の3地域に巡回診療を実施して日本の存在をアピール。なお、医療和平の三条件（GO-NGO 連携不可欠）は下記の如くである。

- 1) 命の普遍性への共鳴
- 2) AMDA(人道援助活動)への信頼
- 3) 日本政府への期待

国民参加型人道援助外交

「人間の安全保障」を目的とした国民参加型人道援助外交。国益を目的とした政府による国連外交および二国間外交とは異なる。「人間の安全保障」に必要な平和の定義は「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」である。平和を阻害するものとして戦争、災害そして貧困等がある。政府、地方自治体、NGO、NPO、企業、アカデミー、国民等の連携が必要である。日本は「人間の安全保障」が実現している世界の楽園である。

- 1) 命に不可欠な水（豊かな緑）
- 2) 平均寿命の世界一（国家が国民を保障）
- 3) 武器の輸出を禁止する法律（高いモラル）

テロの定義

テロの定義が不明確のままに洪水の如く報道がなされている。結果として、テロは変質者や精神異常者によって起こされるのではないかという不安感に襲われる。米國中枢多発同時テロの事例がでるたびにイスラムに対する偏見が増幅される。由々しきことである。

テロの歴史を分析すれば「テロとは殺人によるメッセージ」との解釈が成り立つ。報道は「殺人」に重点がおかれすぎている。「メッセージ」に関する情報は零に近かった。誰が誰にいかなる「メッセージ」を送りたかったのか。メッセージの分析により日本はどう行動すればいいのか。どうすれば日本の安全は確保できるのか。米国に日本は同盟国として何を助言できるのか。どのような同盟のスタイルを保つのがベターか。多様な選択肢の討議が可能になる。定義無きテロの論議は分析と対策が困難になる。パニックに近い感情が噴出する。偏見が増幅再生産される。これが一番危険な状況である。